

令和6年度 学校経営報告書(自己評価)

学校番号	68	学 校 名	静岡県立磐田西高等学校	校 長 名	西村 智子
------	----	-------	-------------	-------	-------

本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的な生活習慣の確立と高い規範意識の育成により、豊かな人間性を醸成する。	・『『あせふこ』の意味と意義を理解し、意識して生活している」生徒90%以上(生1) ・「気持ちの良い挨拶を自分からしている」生徒80%以上(生2) ・「制服(頭髪を含む)を正しく着用している」生徒90%以上(生3)	生1 88.1% ① 91.6% ② 87.4% ③ 86.2% 生2 90.6% ① 89.0% ② 89.9% ③ 92.9% 生3 96.1% ① 96.9% ② 97.0% ③ 94.6%	A	・気持ちの良い挨拶をする生徒は90%超であるが、他人から見ても気持ちの良いあいさつにこだわりたい。 ・挨拶、服装とも、年度当初に比べると徹底できていない生徒もいた。 ・服装、挨拶ともに課題点はあるが、校則の見直しを進める中、生徒だけではなく、教員の意識もアップデートしていきたい。 ・「校歌をしっかりと歌っている」という生徒が80%に至っているとは言えないので継続的に声掛けを行う。
		・日々の学校生活の中で個々の生徒に声を掛けている。(教1) ・「ルールやマナーの意義について考え、主体的に守ることができた」生徒80%以上(生7)	教1 96.9% 生7 97.9% ① 98.9% ② 97.9% ③ 97.0%	A	・継続した指導を必要とする生徒はいるが、自分自身で頭髪服装を正せる生徒の育成や、学習に対する意欲を高める指導が必要。 ・大多数の生徒は守れているが、進路決定後、一部生徒の違反の繰り返しが顕著となった。 ・一部の生徒が何回も注意されている。生徒の自治精神、頭髪服装への誇りを持たせたい。
		・「8:25 朝読書開始を守っている」生徒80%以上(生4) ・「チャイムと同時に授業開始の準備ができている」生徒90%以上(生5) ・「次の予定と時間を意識した行動をしている」生徒80%以上(生6)	生4 95.4% ① 95.8% ② 93.2% ③ 97.1% 生5 98.5% ① 97.9% ② 98.7% ③ 98.8% 生6 96.6% ① 96.4% ② 96.2% ③ 97.1%	A	・8:25 朝読書開始生徒は95.4%。落ち着いて行うことができている。 ・ほぼすべての生徒がチャイム前に確実に準備を済ませ、授業を始めることができた。 ・さらに適切な行動(登校)の励行、就職者・推薦の合格者には進路決定後や卒業まで模範的生活を送らせる指導が必要。

		・清掃点検の実施 年 20 回 ・部活動一斉清掃の実施 年 4 回	部活動一斉清掃は 4 回実施(含: 校内清掃・2 月末実施)	B	・清掃点検は 10 回未満にとどまり、場所や担当者によって清掃にむらが出てしまった。実施と点検の両方を大事にし、生徒が主体的に環境を整えられるようにしたい。
イ	生徒が主体的に学ぶ姿勢の形成を促し、確かな学力と幅広い教養を育成する。	・「他教員の授業を見学し、自らの授業改善を行った」教員 80%以上 (教 2)	・授業参観週間を 2 回実施。校内研修として数学、地歴科の研究授業実施。 ・中学生一日体験授業及び公開授業を実施 (2 回) 教 2 68.8%	B	・研究授業(地歴、数学)は多数の教員が参観。 ・相互参観によりクロムブックの活用方法やグループワークなど他教科を参考にして、自身の授業に活かすことができた。 ・中学生 1 日体験入学(8/ 6) 中学生 739 名参加 保護者 268 名参観 ・公開授業(10/26) 中学生 250 名、保護者 96 名参観
		・「ICTを活用する授業を行っている」教員 80%以上 (教 3) ・「情報セキュリティを意識しながら学習支援ツールや教育用クラウドサービス等を活用した」教員 80%以上 (教 4)	教 3 71.9% 教 4 84.4% 教務課が測定ツールを使い学校教育活動診断を実施。 年 2 回各授業担当が ICT を使い授業アンケートを実施。 スタディサプリ等による学習資料や課題の配布。	B	・「授業は分かりやすい」生徒は、86.8%(昨年度は 77.4%)、「板書・プロジェクター表示が見やすい」生徒は 82.8%であった。 ・クロムブックを効果的に活用できた場面もあったが、さらに検討の余地がある。 ・今後も端末の活用、生徒が主体的に取り組める授業づくりを研究する。
		・「生徒による主体的な活動や生徒同士の対話のある授業・諸活動を行っている」教員 70%以上 (教 5)	教 5 84.4%	A	・観点別評価のデータの提供はできたが、評価方法については今後も模索していく。 ・今後も ICT の活用を通して、「協働的な学び」が深められるよう研究を行っていく。
		・「平日 1 時間、休日 2 時間以上の自主学習ができている」生徒 40%以上 (生 13) ・「スタディサプリ等を活用して学習している」生徒 70%以上 (生 14)	生 13 38.1% ① 27.7% ② 32.0% ③ 52.5% 生 14 31.9% ① 23.6% ② 40.5% ③ 29.8%	C	・生徒全体の 1 日あたりの学習時間は 92 分であり、昨年度(97 分)から減少。テスト前の学習が主であり、日々の学習の改善が必要。 ・「平日 1 時間・休日 2 時間」と答えた生徒(3 年生)は 52.5%であった。大学受験生は一日 4 時間勉強したいところ。 ・スタディサプリを活用して学習している生徒は全校で 31.9%。授業等での活用や参考動画の紹介など、積極的な働きかけが必要。

		・「測定ツールやアンケートを活用して学習習慣等の改善に対する助言を行った」教員 70%以上 (教6) ・「学校の教育活動で、生徒は『学ぶ姿勢』が身に付いている」保護者 80%以上 (保4)	教6 75.0% 保4 84.5% ① 80.3% ② 82.9% ③ 90.3%	A	・授業アンケートを、年2回、実施した。8割以上の生徒が授業内容に対して肯定的な回答をしている。
ウ	普商併設の特色を生かし、地域・社会と連携しながら、生徒の多様な学習ニーズや進路希望に対応し、自己実現を支援する。	・「学校からの進路情報や進路指導は適切である」生徒 90%以上 (生17) ・「学校の進路指導は適切であり、三者面談等は満足の内容である」保護者 80%以上 (保9)	生17 92.8% ① 94.7% ② 92.4% ③ 91.6% 保9 82.8% ① 77.3% ② 80.1% ③ 91.4%	A	・「学校からの進路情報や進路指導は適切である」と回答した生徒は 92.8%(昨年度 90.2%)。学年間に差はなく、適切な情報提供や進路指導が行われたと考えられる。 ・「学校からの進路に関する情報提供や進路指導は適切である」と回答した保護者の割合は、82.8%(昨年度 83.6%)。進路に関する様々な情報やイベントの案内を積極的に配信したことで、進路を主体的に考え、調べたり、参加したりする生徒が増加した。 ・進学補習や面接指導は効果的であった。
		・「『双翼タイム』は、自己の在り方生き方を考えながら、課題を発見し、解決する力の向上に役立っている」生徒 70%以上 (生16)	生16 76.2% ① 86.9% ② 74.7% ③ 68.9%	B	・東京研修等を通して、地域の理解、進路意識が高まった生徒は 99%であった。総探の探究テーマと東京研修の目的等の整合性が課題である。 ・教員の計画の作成や実施、生徒の学習は活発に行われていたが、進路につなげるという視点を深めたい。 ・3年生の総探は、1年次からの将来を見据えたメニュー作りが求められる。SDGs に限らない方が自由に発想できるのではないかな。
		・「個人で、または部活動や委員会活動を通して、地域行事やボランティア活動、国内・海外研修等に年1回以上参加した」生徒 60%以上 (生19)	生19 50.5% ① 49.2% ② 46.9% ③ 55.0%	B	・「児童への読み聞かせ」は、全校から希望者を募った。異年齢と交流する機会が少ない生徒にとって、貴重な体験となった(充実度 93%)。小学校との日程調整が難しい。 ・文化部や一部授業では、地域の団体等に積極的に協力している。

		・「図書館を通じた読書活動の推進が活発に行われている」生徒 60%以上(生 28) ・「年間 7 冊以上の本を読む」生徒 70%以上(生 27)	生 28 45.0% ① 41.4% ② 42.6% ③ 50.4% 生 27 51.5% ① 58.6% ② 49.3% ③ 47.9%	B	・読書する環境は提供できている。年間読書量は減少(年間 4.8 冊・17.1%)してるため、図書館利用者を増やすための企画なども検討する。 ・読書会では、日常では見られない生徒の一面を見ることができた。実施は1回だったが、絵本のPOP 作成など代替活動を実施できた。
		・「進学補習を活用した学習や資格・検定試験に挑戦した」生徒 50%以上(生 15)	生 15 50.5% ① 42.4% ② 50.2% ③ 57.1%	B	・学年が進むにつれて意欲の高まりが見られる。 ・商業の資格の基本的な級では 100%近くの合格率であった。上位級も多数の合格が期待できる。
エ	人権を尊重し、多様な価値観を認め、互いに支え合う姿勢を土台とした人間関係形成力を育成する。	・いじめ等に関する指導案件なし ・「人権や情報モラルに関する講座や授業を通して、人権意識が向上した」生徒 80%以上(生 22)	・人間関係にまつわる事案に対しても丁寧に対応した。 生 22 91.4% ① 94.3% ② 92.8% ③ 87.8%	B	・適切な初期対応やトラブルの予防ができた。 ・自己決定の場の提供や安全・安心な風土の醸成により、自己存在の感受、共感的な人間形成の育成をさらに実践していく。 ・生徒の人権意識は講座や授業を通して向上している。
		・相互に円滑なコミュニケーションを図ろうとする姿勢・雰囲気がある。(生 25)	生 25 90.5% ① 86.4% ② 93.2% ③ 91.2%	A	・自分から友人に声を掛けたり、困っている友人を率先して手助けしようとする姿勢が見られる。
		・「先生方は私の良いところを認め、意欲や向上心が高まる言葉をかけてくれる」生徒 90%以上(生 25)	生 25 90.5% ① 86.4% ② 93.2% ③ 91.2%	B	・多くの生徒は「先生方からの前向きな言葉かけ」を感じている。 ・朝の登校指導中の声掛けに反応する生徒も多い。
		・「学校生活の悩みについて、先生方やスクールカウンセラーに相談できる」生徒 70%以上(生 24) ・「先生は保護者からの連絡・悩み・相談したいことについて、適切に対応してくれる」保護者 85%以上(保 20)	生 24 91.7% ① 87.4% ② 95.4% ③ 91.6% 保 20 85.8% ① 80.3% ② 86.3% ③ 90.8%	A	・「学校生活の悩みについて、…相談できる」とした生徒は、2、3年生は 90%を超えたが、1年生は 87.4%であった。この結果をもとに、現1年生に対する細やかな対応が可能となるよう準備する。

様式第3号

オ	家庭や地域等との連携を基盤とした、安心・安全で信頼・応援される学校づくりを行う。	・学校・学年行事、学習活動、課外活動等について、週1回以上のホームページの更新を行っている。	週1回以上、ホームページの更新を行った。	A	今年度から新たな様式となったが、スムーズに移行することができた。職員が記事を掲載できるようサポートした。週1回の更新も行った。
		教育用クラウドサービスやきずなネットを最大限活用し、効率よく効果的な情報提供を行っている。(教7)	保護者への連絡手段や配布物の電子化を行った。	A	・校内で全体的に、きずなネット、スタディサプリを使用し、配布物を電子化した。 ・生徒向けの配布物(修学旅行・東京研修のしおり等)はデジタルで配信した。
		・地域防災訓練参加生徒及び教職員70%以上(生20) ・「災害時に対応できる」生徒75%以上 ・「交通ルールを遵守している」生徒90%以上(生21) ・「健康に関する講座を通して意識が向上した」生徒80%以上(生23)	生20 82.8% ① 81.1% ② 83.1% ③ 83.6% 生21 96.0% ① 97.4% ② 97.5% ③ 93.7% 生23 94.7% ① 96.3% ② 97.0% ③ 91.2%	A	・地域防災訓練は、事前に周知した成果、70%参加を達成できた。 ・校内の防災訓練では、生徒の行動は迅速であったが、対応力を身に付けさせる取組が必要である。 ・交通ルールを意識して遵守している生徒は96.0%。登下校時に立合指導を行った。事故の防止、自転車の施錠等、引き続き重大案件が起きないように注意する。 ・健康への意識が向上した生徒は、全体で94.7%。意識の向上だけではなく、日常の行動が変わり、学んだことを実生活に活かせるようにさせたい。
		・教職員の事故及び不祥事なし。	・不祥事なし。 ・コンプライアンス、危機管理に関する研修を実施。 ・各部署において、予算等の適正な執行と会計報告を実施。	A	・教職員は日々の声掛けや事案の情報を共有により、自己意識を向上させている。 ・話し合いによる校内研修会等も実施し、自分のこととして考えるようにした。
		・監査等において指示、指摘事項なし。		A	・予算執行には丁寧に対応し、担当職員の適切な対応により執行及び会計報告を行った。
カ	生徒及び教職員が、生き生きと学校生活を送り、学び続ける意欲を持つことのできる環境を整備する。	・「本校での学校生活に満足している」生徒・保護者90%以上(生30)(保26) ・「学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動のいずれかにおいて積極的に活動できた」生徒80%以上(生18)	生30 93.8% ① 95.2% ② 92.8% ③ 93.7% 保26 94.5% ① 95.2% ② 93.9% ③ 94.8% 生18 96.8% ① 95.8% ② 97.0% ③ 97.4%	A	・各行事のアンケート結果から生徒の満足度は高かったと判断できる。生徒会も積極的に関わることで、行事に対する意識が向上した。 ・引き続き仲間を大切に協力し合える雰囲気づくりに努める。 ・継続的な取り組みが結実し、生徒にとって誇れる母校となってほしい。 ・3年生は高校生活最後の行事となるため、積極的に取り組めた。 ・文化祭を総合探究とリンクさせ、学習の過程や成果の発表の場や地域との連携の場にとよい。

		・施設・設備、備品・消耗品が適切に利用されている。 ・月例点検・管理職点検が行われている。	・各部署において備品・消耗品等の整備・点検を随時実施。 ・修繕等が必要な場合は速やかに対応した。	A	・毎月校内巡視を行うことができた。不具合箇所の修繕は、適切に年度末まで対応を続ける。
		・「校内および校外での研修や自己研鑽に積極的に取り組んだ」教職員 90%以上(教8)	教8 71.9%	B	・「校内および郊外での研修や自己研鑽に積極的に取り組んだ」と答えた教員は 71.9%。 ・校内の研修だけでなく、校外の研修も業務に支障がない範囲で積極的に参加していた。 ・総合的な探究の時間の視察等も試みる。
		・分掌の業務を「無くす」「減らす」「変える」の視点で見直す機会を年2回以上設ける。(教9) ・「業務の負担感・多忙感が改善された」教職員 50%。(教10)	教9 56.3% 教10 20.0%	C	・業務を「無くす」「減らす」「変える」と見直した教員は 56.3%、「負担感・多忙感が改善された」と答えた教員が 20.0%であった。 ・業務の見直しや簡略化した結果、個人の負担に偏りが見られたグループもあった。適切な業務分担が必要である。 ・事務室では、全員が1件の提案ができた。提案の実現についても進めている。
		・「おおむね週1回は定時に退勤できた」教職員 80%以上(教11) ・業務の繁忙期であっても、20:00前に退勤する。(教12)	教11 59.4% 教12 90.6%	B	・「おおむね週1回は定時に退勤できた」と答えた教員は 59.4%。 ・教員は退勤時刻を早めるよう努めているが、生徒指導・生徒相談など丁寧な対応が必要な案件が多いと実現が難しい。